



技術士とは

○技術士の制度

技術士=Professional Engineer

○技術士は、国の**技術士法**で規定された技術者

⇒技術士法（昭和五十八年法律第二十五号）

○技術士は「**終身資格**」、「**名称独占**」（法第57条）が規定された資格

○技術士の定義

（技術士法第2条）

技術士とは、科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいう



○すなわち、技術士とは

国によって科学技術に関する高度な知識と応用能力が認められた技術者で、科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格

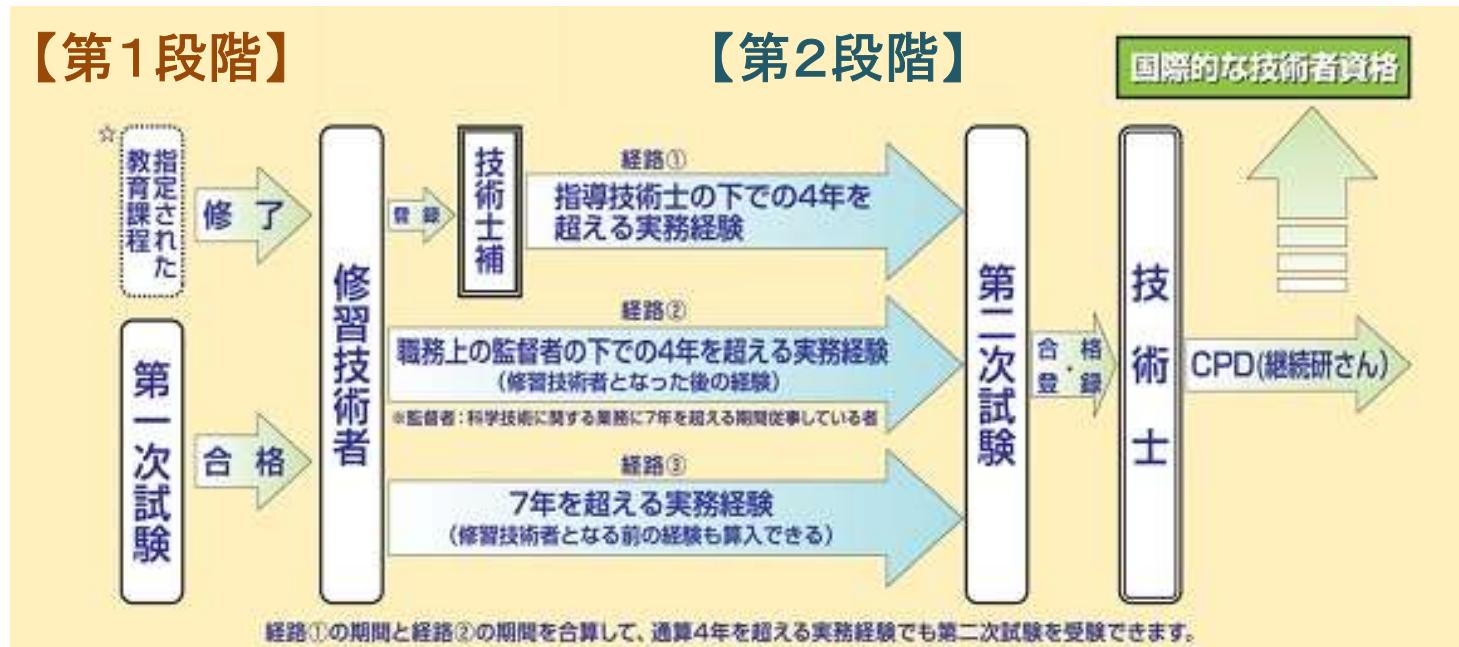
○技術士資格を取得するメリット

- 技術者としての資質・能力を示せる
- 技術者としての生涯の設計図を描ける
- 科学技術の向上と国民経済の発展への関与を意識できる
- 資格取得後の継続研鑽（CPD）が容易となる
- 組織内で自らの技術的能力を示せる

技術士になるには

○技術士試験の仕組み

- 技術士試験は第一次と第二次の2段階。
- 第1段階は、2つの経路(第一次試験合格(合格率約40%) or 指定教育課程(JABEE等)修了)
- 第2段階前に実務経験が必要⇒3つの経路(27歳頃に取得可)
- 第二次試験に合格(合格率約13%)、登録して「技術士」



○部門

機械	船舶・海洋	航空・宇宙	電気電子	化学
繊維	金属	資源工学	建設	上下水道
衛生工学	農業	森林	水産	経営工学
情報工学	応用理学	生物工学	環境	原子力・放射線

○技術士試験(全国20会場)の時期

- 第一次試験: 6月受験申込、筆記試験11月
- 第二次試験: 4月受験申込、筆記試験7月

技術士法



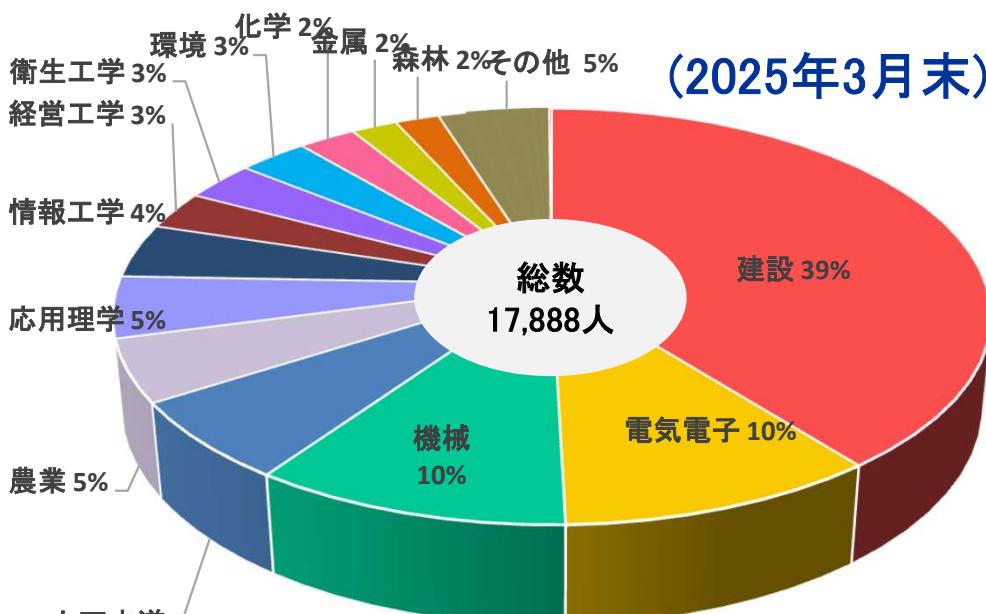
日本技術士会HP 試験・登録情報





日本技術士会の概要

所在地	東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館
会員数	正会員16,313名、準会員3,078名 (2025年3月末)
賛助会員	153社



部門別会員数 (TOP5)

- 建設: 7,041名
- 電気電子: 1,826名
- 機械: 1,813名
- 上下水道: 1,117名
- 農業: 871名

技術士登録者数の推移



技術士法

日本技術士会HP

試験・登録情報





技術士会の歴史

○日本技術士会は1951年に発足

○主なイベント(年表)は以下の通り

西暦	イベント	記事
1948	技術士会設置に係る調査開始 *1	米国に調査団を派遣
1951	日本技術士会発足	通商産業大臣認可
1956	新たに設置の科学技術庁に移管	科学技術庁長官認可
1957	技術士法制定	
1958	第1回技術士試験(当時は二次のみ)	多彩な受験者*2
1959	技術士法に基づき認可	内閣総理大臣認可
1983	技術士法全面改訂	
1984	技術士会が指定機関に認定	
2000	技術士法抜本改訂	一次試験の義務化
2001	発足した文部科学省に移管	文部科学大臣認可
2004	原子力・放射線部門を新設	21番目の部門
2012	公益社団法人に移行	
2019	省令改正(二次試験の見直し)	記述式の導入
2021	技術士会発足70年	

*1当時の内閣総理大臣・吉田茂氏が戦後日本の復興に、技術者の奮起を強く要望 ⇒ コンサル会社の芽生え

*2 第1回技術士試験は、各界のベテラン技術者が受験。受験者の中に井上匡四郎氏(元・鉄道大臣)、八木秀次氏(八木アンテナ社長)、土光敏夫氏(後の東芝/IHIの社長)、上田廣子氏らの名前があった。

原子力・放射線部門の概要

○技術士試験での選択科目

原子力・放射線部門の選択科目は次の3つ。

科 目	原子炉システム・建設
	核燃料サイクル及び放射性廃棄物の処理処分
	放射線防護及び利用

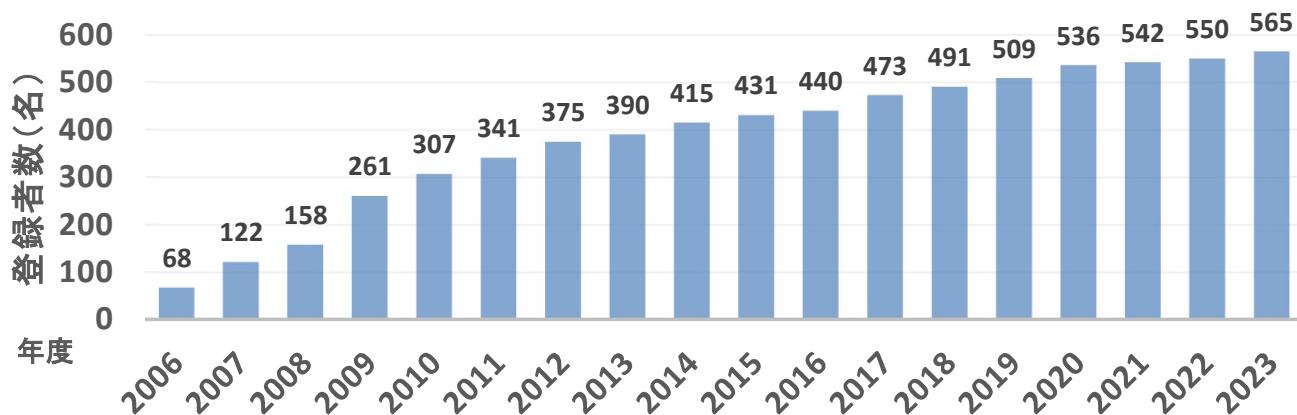
○原子力・放射線部門の合格者数 (2025年度末)

技術士登録者数	技術士	570名	合計 625名
	技術士補	55名	
部会員数	正会員	218名	合計 256名
	準会員	38名	

○2025年度技術士試験の合格率

試験項目	受験者	合格者	合格率
第一次試験	72名	41名	56.9%
第二次試験	63名	12名	19.0%

原子力・放射線部門の技術士登録者数の推移



日本技術士会HP



試験・登録情報



原・放部会HP



詳細説明



技術士試験科目の例 (原子力・放射線部門)

○技術士第一次試験科目の例 (原子力・放射線部門)

日本技術士会HP > 試験・登録情報 > 第一次試験 > 技術士第一次試験の科目

https://www.engineer.or.jp/c_topics/000/000289.html

科目	科目の内容 (マークシート式)	時間	合格
1. 基礎科目	科学技術全般にわたる基礎知識 (5群6問中各3問) 出題分野は、(1)設計・計画, (2)情報・論理, (3)解析, (4)材料・化学・バイオ, (5)環境・エネルギー・技術	1Hr	15問中 8問正答
2. 適性科目	技術士法第四章(技術士等の義務)の規定の遵守に関する適性 (3義務2責務、技術士倫理、コンプライアンス)	1Hr	15問中 8問正答
3. 専門科目	原子力(炉)／放射線／エネルギー 35問中25問選択	2Hr	25問中 13問正答

○技術士第二次試験科目の例 (原子力・放射線部門)

日本技術士会HP > 試験・登録情報 > 過去問

題 (第二次試験) > 20 原子力・放射線部門

https://www.engineer.or.jp/c_categories/index02022240.html

【必須 I】	計 1 問
2問択1 答案用紙3枚 制限時間 2 hr	原子力・放射線部門 全般にわたる専門知識、応用能力、問題解決能力、課題遂行能力*
【選択 II】	計 2 問
2群各2問択1 答案用紙 全3枚	選択科目の専門知識 及び応用能力*

【選択 III】	計 1 問
1群2問択1 答案用紙3枚	選択科目の問題解決能力及び課題遂行能力*

* 資質能力(コンピテンシー)を問われる試験

制限時間：選択 II + 選択 IIIで 3.5 hr

答案用紙：400字/枚、合否基準 ≥60%

試験・登録情報

筆記試験と口頭試験(20分)

筆記試験(AMとPM)は以下の通り

。

20 原子力・放射線部門

必須科目 (試験制度改正後：令和元年度～)

■ 20原子力・放射線部門

令和6年度 (130KB) 令和5年度 (106KB)

令和3年度 (60KB) 令和2年度 (545KB)

選択科目 (試験制度改正後：令和元年度～)

■ 2001原子炉システム・施設

令和6年度 (242KB) 令和5年度 (158KB)
令和3年度 (117KB) 令和2年度 (1166KB)

■ 2002核燃料サイクル及び放射性廃棄物の処理・処分

令和6年度 (250KB) 令和5年度 (156KB)
令和3年度 (143KB) 令和2年度 (1203KB)

■ 2003放射線防護及び利用

令和6年度 (244KB) 令和5年度 (175KB)
令和3年度 (150KB) 令和2年度 (1268KB)

原子力・放射線部会の活動

○部会活動

No	活動項目	記事
1)	例会講演会の開催	6回/年、金曜開催
2)	見学会の開催	1~2回/年
3)	大学への技術士制度説明会	6大学を対象
4)	学会への展示ブース出展	原子力学会、保物学会

○2025年度の例会講演会(略記)

実施日	「テーマ」(講師)
4月25日	「粒子線を用いたがん治療」(筑波大学・櫻井英幸氏)
6月20日	「六ヶ所再処理工場の竣工への取組(JNFL・松田孝司氏)
8月22日	「福島原子力災害派遣における自衛隊の活動概要」(岩熊真司氏)
10月24日	「1F事故の教訓を踏まえた原子力防災の見直し」(NRA・山本哲也氏)
12月19日	「核セキュリティ:原子力事業者の役割」(講師:JAEA・野呂尚子氏)
2月20日	「第7次エネルギー基本計画の概要」(資源エネルギー庁・金井貴大氏)

○2025年度の活動スケジュール(例)

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 (月)

技術士説明(大学、企業等など:訪問は要検討)

▲新技術士講習会(4/25) 春の原子力学会:リアル出展▲

▲HB例会講演会① 保物研究発表会:リアル出展を計画▲

▲HB例会講演会②

▲HB例会講演会③

HB:ハイブリッド

▲HB例会講演会④

▲リアル&web見学会

▲HB例会講演会⑤

部会報▲

HB例会講演会⑥▲

技術士会の会員・部会活動

委員会活動等、部門を越えたコミュニティに参加し、人脈が増えた。



2017.4 大学生への
技術士説明会

同じ原子力・放射線部門でも選択分野の異なる人と出会う機会を通じ、より多面的に検討する機会が増えた。



2018.10 見学会

地域の理科支援活動など、貢献活動に参加する機会を得た。



企業の立場を超えて、『ひとりの技術士』として、原子力の抱える諸問題の検討、討論ができる。



2016.11 茨城県内小学校
学校での理科体験協力
茨城県技術士会他

修習技術者との交流等を通じ、若手育成に貢献する機会を得た。

部の役員・幹事として関わる事によって、技術士のあるべき姿への理解が深まった。

企業内業務だけでは機会が得にくい、著名な方々と会い、より広い知見が得られた。



部会主催の講演会

CPD講座など、自己研鑽のきっかけと継続研鑽に参加し易くなり更なるコンピテンシーの向上を図ることができた。

見学会等を通じ、原子力の抱える諸問題について考える機会を得た。